

# 整形外科研修

## 整形外科ローテーション研修目標

骨格、関節、筋肉と中心とした運動器系疾患を症状・身体所見より鑑別診断し的確な初期治療を行える能力を身につける

### 経験すべき診察法・検査・治療・病態・疾患

1. 病態を的確に把握し、整形外科的な身体所見の取り方を実施し正確に記載するために
  - ① 計測法（上肢長、上腕長、前腕長、下肢長、大腿長、下腿長）ができる
  - ② 関節疾患の診察（関節可動域、関節水腫、不安定性、拘縮、強直）ができる
  - ③ 脊髄、脊椎、末梢神経の診察（叩打痛、変形、反射、知覚、徒手筋力テスト、Tinel 兆候、各種神経系の誘発テスト）ができる
  - ④ 外傷性疾患の診察（皮下および開放性骨折・脱臼、筋・腱・神経損傷、脊髄損傷、血腫、皮下出血、各部位の不安定性）ができる
2. 症状・診察した情報をもとに必要な検査の適応を行えるために
  - ① 単純X線像（骨、関節、脊椎、石灰化、靭帯損傷、異物、動態撮影）を実施し読影できる
  - ② CT、MRI、シンチグラム、断層像（上記＋軟部、脊髄、軟骨、腫瘍）の基本的な読影ができる
  - ③ 脊髄造影と造影後の CT、神経根造影およびブロックの適応について述べ、基本的な読影ができる
  - ④ 筋電図および神経伝導速度、関節鏡、骨および椎体生検、筋生検の適応について述べ、基本的な読影、解釈ができる
3. 整形外科的疾患の病態に応じた治療法を患者に説明し行えるように
  - ① 固定包帯、キャスト、スプリント、アルミスプリントの使用法を実施できる
  - ② 牽引療法の理解（直達、介達）の適応を述べ実施できる
  - ③ ブロック注射（神経幹内注入、コールドブロック、頸部および腰部硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、各種神経ブロック）の適応を述べ実施に参画できる
  - ④ 装具療法（コルセット、種々のプレース）、義肢、車椅子、松葉杖の適応と使用法を患者に説明できる
  - ⑤ 関節穿刺と関節内注入（肘、肩、股、膝、足）の適応を述べ実施に参画できる
  - ⑥ 腱鞘内注入、骨液包内注入の適応を述べ実施に参画できる
  - ⑦ 外傷患者に対する基本的なデブリードマン、創傷処理の実施ができる
  - ⑧ 骨の手術（骨接合術の種々、骨切り術、骨移植術、骨搔爬術、骨切除術）適応について述べ実施できる
  - ⑨ 脊椎の手術（部分椎弓切除術、椎弓形成術、インスツルメンテーション、硬膜切開およびくも膜切開、硬膜管内操作）の適応につき説明できる

- ⑩ 関節の手術（関節切除術、授動術、固定術、人工関節置換術、関節鏡視下による種々の関節内手術操作）の適応につき説明できる
- ⑪ 腱・靭帯の手術（腱鞘切開術、切腱術、腱縫合術、腱延長術、腱開放術、腱移植術、靭帯縫合術、靭帯再建術、人工靭帯ほか）の適応につき説明できる
- ⑫ 神経の手術（神経剥離術、移行術、除圧術、縫合術、神経移植術の基本につき説明できる

4. 整形外科疾患の鑑別診断・治療が速やかに行えるように代表的な病態・疾患を経験する

- ① 外傷疾患（打撲、捻挫（B）、脱臼（B）、骨折（B）、筋挫傷、脊髄、脊椎、神経、血管、筋、腱断裂、関節不安定性ほか）
- ② 関節疾患（変形性関節症、肩関節周囲炎、腱板損傷、髄内障、手根不安定症、キーンベック病、大腿骨頭無腐性壊死、ペルテス病、膝靭帯損傷（B）および半月板損傷、外反母趾、離断性骨軟骨症、関節リウマチほか）
- ③ 脊椎・脊髄疾患（椎間板ヘルニア（B）、OPLL、頸髄症、頸椎神経根症、脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、脊髄損傷ほか）
- ④ 感染症疾患（化膿性関節炎、急性・慢性骨髓炎、骨関節結核ほか）
- ⑤ 先天性疾患（斜頸、内反足、先天性関節脱臼、臼蓋形成不全、種々の奇形ほか）
- ⑥ 代謝・変性疾患（通風、CPPD、骨軟化症、骨粗鬆症ほか）
- ⑦ 腫瘍性疾患（良性および悪性骨・軟部腫瘍の各種）
- ⑧ 血管性疾患（糖尿病性壊死、ASO、TAO）

（B）疾患については外来診療または受け持ち入院患者（合併症を含む）で自ら経験する